

明治大学ELM本開館に接して

明治大学ELM館長 間宮 勇

この度、**ELM**の本開館が実現しました。

科学技術の発展は、過去に人類が直面してきた様々な問題を解決へと導きました。しかし、「科学は一つの問題を解決するのに、いつも十の新たな問題を作り出す」とも言われてきました。この言葉を誇張とみるか否かはさておき、科学の発展による問題の解決が新たな問題を生み出してきたことは間違いなく、新たな問題は、科学技術の分野のみならず、文化や社会の分野にいたる多方面に広がるものでした。特に近年の医学・医療分野の発展は目を見張るものがあり、「神の領域」に踏み込むものとして、神学・哲学の分野を含めて活発な議論が繰り広げられています。

そのような議論を社会の中で意味のあるものとするために積極的にかかわっていくこと、さらに学問的にも実りあるものとして後世に引き継いでいくことは、大学に課せられた使命です。日本の医事法学を確立された唄孝一先生が生涯をかけて収集された資料・文献を基盤として、医事法、生命倫理、医療社会学、医療経済学などの資料文献等が所蔵されています。ここに所蔵された資料文献等を一般に公開し、医事法に関する研究・教育に役立てることが**ELM**の役割です。本館に所蔵された資料文献が活発に利用されて、この分野の研究が発展することを願ってやみません。

今から約15年前に、唄先生からこれらの資料や文献の寄贈のお申し出があり、それ以来、文献資料等の分類整理が進められてきました。当初は、さまざまな面で不十分な中での船出でしたが、我々スタッフは熱意を持って運営にあたり、ようやく本開館、そして開館記念講演会・シンポジウムを迎えることができました。

唄先生の御存命中に今日というこの日を迎えることができなかつたことを大変申し訳なく思っておりますが、明治大学法学部としても、この**ELM**をさらに充実させ、法学界や法曹実務界のみならず医学界とも連携し、医療や生命倫理に係わる議論に積極的に参加し、この分野の研究教育の発展に貢献していくことを通して、先生のご遺志に応えたいと思います。

皆さまには、この**ELM**がさらに発展して、資料館として、そして研究機関としての成果を上げられるような活動ができるよう、是非ともご協力賜ればと考えております。

どうぞよろしく願いいたします。

